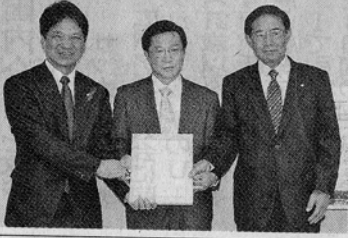


「企業の森」事業で
NTNと協定調印

県、桑名市

県の推進する「企業の森」事業で、大手機械部品メーカーNTN（大阪市）が桑名市の多度山の整備に取り組むことになり、同社と県、桑名市との協定の調印式が四日、県庁であった。

県が二〇〇六年度に始めた同事業での協定調印は二十一件目。同



社はNPO法人「森林の風」（四日市市）から協力を受け、私有林四五畝で植樹や下草刈り、歩道の整備を行う。

調印式には同社桑名製作所の井上博徳所長、写真①と江畑賢治副知事、同②、桑名市の山下卓司副市長、同③が出席。井上所長は「活動を通じて地球環境との共生を重視する心を育てたい」とあいさつした。

（鈴木龍司）

もちまきや神事
山の安全を祈願

紀北の三戸神社

紀北町紀伊長島区島原の三戸神社で七日、山の神の日の神事が営まれた。

尾鷲市や紀北町では、毎年十一月七日を山の神の日と定め、林業関係者が山仕事を休み、安全祈願をする。三戸神社では、近辺の山を所有する三井物産フォレストが、神事を執り行っている。

神事の後ももちまきがあり、神社の広場に組まれたやぐらから九十キの紅白もちがまかれ、地元の人約百人ほどが争って拾っていた。

参加した紀北町紀伊



長島区島原の製造会社社員鈴木和子さん（左）は「奥深い山の中での神事はおごそかであつた。ずっと続いてほしい」と話していた。

（藤原啓嗣）

盛大なもちまきに大勢の人が集まりにぎわった「山の神の日」 紀北町紀伊長島区島原の三戸神社で

